

石川県立美術館だより

平成17年11月1日発行 第265号

第52回 日本伝統工芸展金沢展

10月28日(金)~11月6日(日)会期中無休
午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)



朝日新聞社賞 友禅訪問着「遥延」 毎田健治



高松宮記念賞 沈黒緑陰箱「能登有情」 山岸一男



教会 鴨居 玲 1976年
ひろしま美術館蔵

没後20年 鴨居 玲展 - 私のお話を聞いてくれ -

11月10日(木)~12月11日(日)会期中無休
午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

目次

第52回日本伝統工芸展金沢展	2
没後20年 鴨居玲展 私のお話を聞いてくれ	3
朝鮮のやきもの	4
名物裂と香道具、至芸の世界.....	5
石川ゆかりの京都の日本画家たち	5

今月のコレクション展示室 主な展示作品...6
企画展TOPIC(黒の迷宮 凝視の刻).....6
ミュージアムレポート、ミュージアムコンサート...7
重要なお知らせ、11月の行事案内.....7
所蔵品紹介、移動美術展のお知らせ他.....8

企画展示室(第7~9展示室)
第52回
日本伝統工芸展金沢展
 10月28日(金)~11月6日(日)会期中無休

主催 / 石川県教育委員会、日本放送協会、朝日新聞社、北國新聞社、日本工芸会
 後援 / 文化庁、富山県教育委員会、福井県教育委員会



文部科学大臣賞 髹漆線文食籠「遙」 荒川文彦



日本工芸会奨励賞 榲造盛器 川北浩彦



桐造盛器 川北良造



沈金箱「花明り」 前史雄



耀彩壺 徳田八十吉

わが国には、世界に卓絶する工芸の伝統があります。それは、各地の風土に根ざした工芸品を生み出し、そして、その伝統技術を大切に継承し発展させてきました。昭和二十九年に始まった日本伝統工芸展は、これらの優れた伝統技術の保護と後継者の育成ならびに伝統工芸に対する普及を目的として毎年開催されるものです。

今回は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸(七宝・硝子・瑪瑙細工・截金など)の七部門の入選作品七百三十点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の基本作品と、石川、富山、福井の各県、及びその他の都道府県の入選作品三百五十七点を展示します。

今年の石川県の入選者は、新入選四人を含む八十七人で、そのうち入賞者は四人を数え、都道府県別では東京都の三人を凌いで第一番となるなど、石川県の伝統工芸の層の厚さやレベルの高さをうかがわせるものでした。まず漆芸部門では山岸一男氏が高松宮記念賞、荒川文彦氏が文部科学大臣賞、染織部門では毎田健治氏が朝日新聞社賞、木竹工部門では川北浩彦氏が昨年に引き続き日本工芸会奨励賞を受賞しました。

また今年の「特別展示 わざを伝える」では、「鑄金」伝承者養成研修会の制作作品を展示し、同会の研修風景を収録したビデオもあわせて上映いたします。



砂張十八角銅鑼 魚住為楽



平文富士悠久平棗 大場松魚



象嵌龍銀花器「夕雲」 中川 衛



釉裏金彩壺 吉田美純

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。	一般	個人	一般	団体(20名以上)
	600円		500円	
	大学生		300円	
	400円	高校生以下は無料		
	高校生以下は無料			
	高校生以下は無料			

観覧料

テレビ放映
 北陸三県のNHK総合テレビで、10月30日(日)午前7時45分から本展の番組放映があります。再放送は11月3日(木・祝)と5日(土)を予定しています。

列品解説
 会期中10月28日午前、30日午後、11月2日午後を除いた毎日、午前11時と午後1時30分の2回、人間国宝の先生を含む出品者などによる列品解説を行います。

講演会(聴講無料)
 演題「木工芸について」
 講師 中川清司氏(重要無形文化財保持者)
 日時 10月30日(日)午後1時30分
 会場 当館ホール

企画展示室(第7~9展示室) 没後20年 鴨居 玲展 - 私のお話を聞いてくれ -

11月10日(木)~12月11日(日)会期中無休

主催/石川県立美術館 共催/北國新聞社
後援/金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送
テレビ金沢、北陸朝日放送
協力/財団法人 日動美術財団



月と男
芦屋市立美術館蔵



鴨居玲が没してはや二十
年が過ぎようとしています。
酔っぱらいや廃兵、しわに
埋もれた老婆など、醜怪と
もいえる姿がいつしか心あ
たたく、光輝にすら思え
てくる鴨居の作品は、見る者に「いのちとは何か、人
生とは何か」を問いかけます。自己の内面を鋭く抉り
出し、内部の燃えさかる光をカンヴァスに描き出し
た、その真摯な姿が、人の心を捉えてやまないの
でしょう。

鴨居は新聞記者であった父鴨居悠(はるか)の任地
金沢で生まれ、育ち、戦後金沢美術工芸専門学校(現・
金沢美術工芸大学)の一期生として宮本三郎に師事
し、才能を發揮しました。宮本の創設した二紀会に所
属し、頭角を現すのですが、昭和三十年代の抽象画全
盛期に際しては、制作が思うよういかず、苦悩し南
米をさまよった。

しかし、四十年代に入ると鴨居は見事な復活を果た
します。昭和会展優秀賞、続いて安井賞という輝かし
い賞を受賞後、パリそしてスペインへ新天地を求め旅
立ちます。スペイン、ラ・マンチャ地方のバルデー
ニヤスでは村の人々との交流を通して、廃兵や老婆、
そして酔っぱらいになぞらえた自画像、さらには教会
など多くの傑作が生み出されました。

帰国後は神戸に住み、裸婦や恋人といった新たなテ
ーマに挑み、やがて「1982年 私」を頂点とする
おびただしい自画像を描き続けたのです。

混沌を極める現在、一人ひとりの内面にある孤独、
不安、または運命といった陰の世界を払拭せず、そし
て愛に対しても正面から対峙した鴨居の作品は、私た
ちが生きる上で大きな示唆を与え続けるものといえる
でしょう。

本展では、没後二十年に際し、初期の自画像から晩
年の作品まで、各時期の代表作を中心に未発表の作品
を含めた油彩、水彩、素描など110余点を一堂に展
示し、鴨居芸術の全容をご覧いただきます。

主な作品

夜(自画像)	昭和22年	笠間日動美術館蔵
観音像	昭和23年	北國新聞社蔵
月と男	昭和34年	芦屋市立美術館蔵
静止した刻	昭和43年	東京国立近代美術館蔵
蛾	昭和44年	長崎県美術館蔵
蜘蛛の糸(芥川龍之介より)	昭和46年	ウットワン美術館蔵
白い杖	昭和46年	金沢市蔵
風	昭和47年	ひろしま美術館蔵
教会	昭和51年	石川県立美術館蔵
石の花	昭和54年	石川県立美術館蔵
1982年 私	昭和57年	石川県立美術館蔵
出を待つ(道化師)	昭和59年	笠間日動美術館蔵
勲章	昭和60年	笠間日動美術館蔵

講演会(入場無料)
日時 11月13日(日) 午後1時30分
場所 美術館ホール
演題 「鴨居 玲さんの思い出」
講師 長谷川智恵子氏(日動画廊副社長)

ミュージアムコンサート(要整理券)
日時 11月27日(日) 午後1時30分
「祈りの調べ ギターリサイタル」 詳細は7P

ギャラリートーク(当館学芸員による作品解説)
日時 11月20日(日)、11月27日(日)
12月4日(日)、12月11日(日)
*午前11時から行います。 観覧会観覧料が必要です。

観覧料

個人		団体(20名以上)	
一般 1,000円	大学生 600円	一般 800円	大学生 400円
高校生以下 300円		高校生以下 200円	

当館友の会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。



勲章
笠間日動美術館蔵



蜘蛛の糸(芥川龍之介より)
ウットワン美術館蔵



白い杖

今月のコレクション展示室

(第2展示室)

特別陳列

朝鮮のやきもの

10月27日(木)~12月23日(金・祝)会期中無休

主催 / 石川県立美術館



斗々屋茶碗 銘百万石

朝鮮のやきものは、総務省が本年進めている『日韓友情年二〇〇五』に協賛して開催するものです。韓国の美術で日本に最もなじみが深く、また日本人に最も好まれていた美術工芸品は、陶芸だということで開催することとなりました。日本と韓国の友情年ということですが、朝鮮半島全体のやきものということでも、朝鮮のやきもの展として紹介します。

朝鮮のやきものは、中国のやきものとともに、わが国のやきものにとつて、もつとも関係の深いものです。

日本人が過去に朝鮮のやきものと接触する機会は四回ありました。最初は五世紀前半に、朝鮮半島からの渡来工人によつてもたらされ、古墳時代中期から平安時代にかけて焼かれた須恵器です。二度目は、十六世紀に茶道の発展とともに、李朝の雑器である茶碗類が茶人たちによつて茶席でとりあげられたことです。井戸や粉引、三島、刷毛目などの素朴なやきものが、侘び茶の精神にかなつてとりあげられたのです。三度目は、文禄・慶長の役(一五九二年)による工人の導入です。朝鮮半島へ出兵した日本の大名たちが、陶工を連れ帰つて、自藩でのやきものを興隆したのです。唐津・薩摩・上野・高取・萩などの諸窯がそつであり、有田の諸窯もそうです。四度目は、近代になつてから、柳宗悦らの民芸の愛好家をはじめとする日本の愛陶家によつて李朝陶磁の美しさが再認識され、この名もない陶工たちによる作品が蒐集されたのです。

本展では、高麗時代に中国の越州窯の影響を受けて発達し、本家をしのぐほどに成長し、翡色青磁と呼ばれた高麗青磁と高麗独自といわれる象嵌青磁をはじめとする高麗のやきものと、日本では三島と総称したり、三島と刷毛目に分けたりする粉青と秋草文で代表

される染付作品などの李朝のやきものを展示します。

高麗青磁としては、雲鶴平茶碗をはじめとする茶碗を四点展示します。狂言袴茶碗は、胴部に施された丸紋のある茶碗を、狂言師がはく袴の紋に見立てて狂言袴といっているものです。また、青磁象嵌菊花文托蓋や小碗を香炉に見立てた青磁象嵌香炉なども展示します。青磁柳鶯文水注は、柳、鶯、菊花などを白土、黒土で象嵌したもので、楚々とした味わいを感じさせるものです。

李朝陶磁としては、刷毛目茶碗二点、小井戸茶碗、熊川茶碗、斗々屋茶碗、伊羅保片身替茶碗、黄伊羅保茶碗、御本半使茶碗などの茶碗九点をはじめ、三島鉢、搔落瓶、祭器、染付作品、鉄砂作品などを展示します。伊羅保片身替茶碗は、釉薬を片身替りにかけ分け、巧妙な姿とともに変化に富み、渋く味わい深い茶碗です。

斗々屋茶碗 銘百万石

とつやは斗々屋、魚屋などと書き、李朝前期に渡来した高麗茶碗の一種です。褐色の胎土に透明釉がかかるのが特徴です。この茶碗は高台が高く堂々とした姿で、深い褐色の寂びた趣が見所です。轆轤目が繊細に走り、そこに灰白色の釉が景色を添えています。腰の荒い削り跡、高台内の縮緬皺など見所が多く、格調高い気品をたたえる名碗です。元箱の書付は加賀藩三代藩主前田利常と伝えます。

(会期前半 十月二十七日~十一月二十四日のみ展示)

朝鮮の風土から生まれた独自の美意識を、やきものを通してくみとつてもらつとともに、楽しんでいただきたいと思ひます。



伊羅保片身替茶碗



狂言袴茶碗

青磁柳鶯文水注
小松市立本陣記念美術館蔵

次回のコレクション展示室

前田育徳会展示室

10月27日(木)～11月27日(日)

第2～6展示室

10月27日(木)～12月23日(金・祝)

前田育徳会展示室
特集
名物裂と香道具

毎年恒例となりました前田育徳会に所蔵される「名物裂と香道具」を紹介します。ここで紹介する名物裂は、どれも10cmから20cm四方という大変小さなものですが、よく見ると、例えば金欄であれば、龍・石畳・鱗・唐草といった模様が金糸を用いて緻密に表されたものであることに気づき、小さな裂の中に広がるその美しさに魅了されるに違いありません。

こうした裂を「名物」として愛でる姿勢は、中世以来、主として茶道の世界において脈々と受け継がれたもので、特に有名なものは「大徳寺金欄」「万暦緞子」などの呼称でもってはやされました。茶席において繰り返し用いられる仕覆の裂地を訊ねる問答は、今もたいへん楽しいものであります。

前田家では、これら渡来の裂を、三代利常の時代に長崎にて大量に求めたことが知られています。こうした蒐集は大名ならではのもので、前田家に伝えられた名物裂のコレクションは、東京国立博物館・京都国立博物館などにおいても見ることが出来ます。本特集では、前田育徳会より寄託される八十八点の名物裂の中から、二十五点を紹介します。香道具も展示しますので、あわせてご覧ください。

第5展示室
特集
至芸の世界
- 石川ゆかりの芸術院会員・人間国宝 -



石川県は、江戸時代に加賀藩主前田家の美術工芸に対する積極的な施策によって、工芸技術の高い水準が維持されている地域として広く知られています。陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・諸工芸と、そのほとんどの分野で技が磨かれ、その流れは今日まで絶えることなく続き、数多くの工芸家を輩出しております。また、その多くの作家として活躍していく人々が、なによりの名誉としているのは、日本芸術院会員の任命や、重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定であり、文化勲章の受章であることは言うまでもありません。

当館では、石川県の特徴である工芸を紹介するために、作品の収集に努めてまいりました。今回の特集では、その数多くの館藏品の中から、芸術院会員でもあり、人間国宝でもあった松田権六氏の「蓮菜之棚」ほか、石川県ゆかりの芸術院会員、重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品四十四点を一堂に展示します。

蓮菜之棚 松田権六

第6展示室
特集
石川ゆかりの
京都の日本画家たち



阿蘇風 西山英雄

当県の近代日本画家の系譜を見ていくと、京都にゆかりのある作家が、かなり見つけられます。たとえば、当県出身で、京都の美術学校に学び、京都で活躍したり、郷里に戻って制作を行ってきた作家たち、あるいは、金沢美術工芸大学に学んだ後、京都で作家活動を続けていった作家などがあげられます。

そこには、古来からわが国の文化の一大拠点として伝統を形成してきた京都という都市と、地方において京の文化を吸収しながら、雅な伝統文化を築いてきた加賀の地との、強い結びつきが反映されているようです。

こうした一連の作家の作品には、特別共通する特徴は見られませんが、大きく見れば、京都の円山四条派の作風を基点として、それぞれが個性豊かな色彩感覚と造形性を駆使し、存在感のある画面を形成しているのがわかるのではないのでしょうか。

本展では、館藏品を中心に、石川に深いゆかりをもつ京都の日本画家たちの絵画表現を、十二作家・十七点の作品で、紹介しようとするものです。

今月のコレクション展示室 主な展示作品

前田育徳会展示室:10月27日(木)~11月27日(日)
第2~6展示室:10月27日(木)~12月23日(金・祝)

● = 国宝 = 重要文化財



装置 開 光市



黒い木 清水良治

一般 350円	個 人	高校生以下は 無料
大学生 280円		高校生以下は 無料
一般 280円	団体 (20名以上)	大学生 220円
大学生 220円		高校生以下は 無料

観覧料

坂に建つ街

流

坂に建つ街

企画展 TOPIC

黒の迷宮 - 凝視の刻 -

木下 晋・小林敬生・日和崎尊夫 第2回

小林敬生のダイナミックな木口木版

新春の当館企画展は、「黒の迷宮 - 凝視の刻 - 」と題し、木下 晋・小林敬生・日和崎尊夫という3人の作家による黒線が織りなす細密な凝視の世界をご覧ください。TOPICは計3回の予定で、第2回目は、小林敬生についてご紹介します。

小林敬生は、昭和19年(1944年)、島根県松江市に生まれました。広島県で幼少年期を過ごし、10歳の時に、滋賀県大津市に移り住みます。このとき琵琶湖の湖岸や川でとった魚や昆虫などの生き物、繁茂する植物など、自然に囲まれて過ごした記憶が、後に小林の作品の中に幻想的に描かれることとなります。高校卒業後京都と東京で美術を学び、板目木版や油彩画などを制作していましたが、1970年代中頃に日和崎尊夫(次号のTOPICで紹介)の木口木版画のシリーズKALPAと出会い、衝撃を受け、その魅力にとりつかれます。そして、木口木版画の制作を始めるや独自の世界を確立、現在ではその第一人者として高い評価を受けています。

木口木版画は黄楊や椿のような堅い材質の木を水平に輪切りにした面(木口)を銅版用のビュランやノミで彫り版を作ります。本来、小画面で小さな作品が多いのですが、1980年代後半より、版木を10枚以上も繋ぎ合わせ、非常

にスケールの大きい、ダイナミックな作品を制作しています。作品には雁皮紙が使われますが、非常に薄けれど強いという雁皮紙の特性を生かし、同一の版木で刷った紙を裏返しにして張り合わせ一つの作品に仕上げます。まるで鏡に映したような効果が生まれることからこの技法を「鏡貼り」といい、小林独自の表現技法です。

小林の作品には、自由に飛翔する鳥や泳ぎ回る魚、地中から這い出てきたような昆虫などの生き物、画面いっぱいに繁茂する植物が絡み合う幻想的な光景が登場します。「近代科学の異常ともいえる進歩、その激しさに私はいつの頃からか嫌悪感すら感じるようになってきました。自然の摂理を無視、あるいは抗い克そうとするかみえる近年のテクノロジーの進歩に私は人間の傲慢さを、思い上がりを感じるのです。」と、小林が語っているように、テクノロジーの急激な進歩とともに築かれてきた文明社会への警鐘、そして、人間が本来あるべき自然との共生というテーマが作品に流れています。本展では、現代木版画界で活躍している版画家小林敬生の木口木版作品と下絵等の資料を合わせた約40点をご覧ください。(吉村尚子 学芸主任)



白い朝又は早暁 - 03・賛歌 B -

「黒の迷宮 - 凝視の刻 - 木下 晋・小林敬生・日和崎尊夫」の会期は、平成18年1月4日(水)~2月5日(日)です。

ミュージアム レポート

ミュージアムコンサート

ギャラリートーク

8月27日(土) 吉田富士夫 - 手品師の息づかい -



吉田先生の初期から晩年までの代表作に、陶芸やガラス絵、版画、パステル画などの多彩な作品を交えた展示室を回りますと、独特の吉田ワールドといえるでしょうか、少しの暗く、そしてはかなげで美しい「催眠術」と「文楽」の世界に圧倒されます。

トークではまず生い立ちを語り、どのようにして絵の世界に入れ、そしてイメージの源泉はどこにあるのかなどを話しました。内灘にあった粟ヶ崎遊園での手品や、サーカスの思い出がそうでしたと申しますと、ほーおと懐かしむ声をあげられます。大作を見た後、小品の道化師たちの前に来ますと、皆さん様に顔がほころび、吉田先生の『幻影劇場』(作品集)を持っていると話される方や、パステルがほしいとおっしゃる方など、今回はファンの方にお集まりいただいたようです。楽しいひとときでした。

キッズ 鑑賞講座

9月3日(土) 吉田富士夫を鑑賞しよう



特別陳列として第3展示室で開催されていた「吉田富士夫 - 手品師の息づかい -」を鑑賞しました。金沢出身の吉田富士夫の油彩画をはじめ、水彩画やパステル画、九谷焼の

作品が展示してあり、吉田ワールドが華やかに展開されていました。子供たちには、吉田作品に出てくるサーカスのピエロに注目してもらい、鑑賞前に「あなたのピエロはどんな顔?」というお題で、各自にピエロの顔を想像して描いてもらいました。それから展示室へ。自分が描いたピエロによく似たピエロを見つける子供もいて、楽しく鑑賞できました。

吉田氏が子供の頃に見たサーカスや催眠術師や手品師の思い出がちりばめられた夢のような世界に浸ってもらえたのではないのでしょうか。

今回の鑑賞講座は12月3日(土)「至芸の世界を鑑賞しよう」です。この機会に私たちとたくさんの美術に親しみましょう。

祈りの調べ ギターリサイタル

【日 時】 11月27日(日) 午後1時30分～

【場 所】 石川県立美術館ホール

【演 奏 者】 谷内直樹：ギター

【演奏曲目】 J.ロドリゴ作曲「祈りと踊り」他

【応募方法】

往復ハガキでご応募いただき、入場整理券を発行いたします。応募多数の場合は抽選となります。

往信用ハガキの裏面には「コンサート希望」と明記し、住所・氏名・年齢をお書きください。

返信用ハガキの表面には、返信先(住所と氏名)をお書きください。

返信用ハガキの裏面には、入場整理券として印刷する部分ですので、何もお書きにならないでください。

次の注意事項をお守りください。

- ・応募資格は中学生以上に限ります。
- ・入場者一名につき、往復葉書一通でご応募ください。
- ・お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますので、ご注意ください。
- ・当日キャンセルによる空席が生じた場合は、締め切りまでにご応募いただいて抽選もれとなった方の中から、所定の手続きをとられた方に入場していただきます。
- ・当館からの返信は、再発行いたしません。

【応募締切】 11月10日(木) 必着分に限ります。

【備 考】 演奏会だけの入場は無料ですが、展示室への入場は別途料金が必要ですので、ご注意ください。

- 重要なお知らせ -

国宝 色絵雉香炉(野々村仁清作)が、貸し出しのため下記の期間は展示されませんのでご了承ください。

貸出期間 11月7日(月)～12月5日(月)

展覧会名 「華麗なる伊万里、雅の京焼」

会 場 東京国立博物館・表慶館

11月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
11/12(土)	ギャラリートーク	朝鮮のやきもの (南 俊英 学芸第一課長) 展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
11/13(日)	講 演 会	演題「鴨居 玲さんの思い出」 講師：長谷川智恵子氏(日動画廊副社長)	ホール
11/19(土)	土 曜 講 座	文化と文化事業 (北澤 寛 学芸主査)	講義室
11/20(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物8 天平文化の演出者 聖武天皇と光明皇后(30分) 正倉院宝物9 華麗な宮廷生活(30分)	ホール
11/26(土)	ギャラリートーク	至芸の世界 石川ゆかりの芸術院会員・人間国宝(末吉守人 学芸第一課担当課長) 展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
11/27(日)	ミュージアムコンサート	祈りの調べ ギターリサイタル 演奏：谷内直樹氏(ギタリスト) 曲目：J.ロドリゴ作曲「祈りと踊り」他 整理券が必要です。普及課までお問い合わせください。	ホール

11月の全館休館日はありませんが、展示替えのため、前田育徳会展示室は11月28日(月)・29日(火)閉室いたします。

え こ ひき はな いれ 絵粉引花入

李朝時代 15世紀

口径4.6 胴径14.5 底径6.7(cm)



粉引は、李朝時代前期の十五、十六世紀に焼かれた白化粧陶器の一種類です。三島、搔落刷毛目などとともに、韓国でいう粉青沙器に属し、粉吹ともいいます。きめの粗い鉄分の多い灰黒色の胎土を白泥の桶にずぶりとつけ込んで化粧掛けするところが特色で、これを素焼きして、透明釉を掛けて還元炎焼成しています。粉引の白化粧地に鉄絵具を使って文様を描いたものを絵粉引といい、遺品が極めて少ないものです。粉引は釉薬の亀裂や気泡穴を通して水分などが染み込む雨漏をつくりやすいもので、日本の数寄者はその雨漏を景色として楽しんできました。

李朝陶磁では、粉引は白磁への憧れを充たす代用手段にしか過ぎなかつたといわれますが、その野趣あふれる魅力が日本人の侘び心にかない、茶陶として珍重されました。

本作は、赤褐色の黒ずんだ素地に白化粧を施し、下ぶくれでどっしりとした扁平な胴に二カ所、草花を太い線でありながら軽快な筆致で簡潔に描いています。割合と長い頸と口部は薄造りでひきしまり、それに見合うように高台ががっしりと強く作られ、全体に安定感のある落ち着いた姿をしています。

こだわりの無い、思いのままに描かれた草花が風雅な趣を添えており、雨漏が何ともいえない景色となり、味をかもし出し、李朝陶器特有の素朴な趣を呈する花入の優品です。箱書付に「絵古悲幾 花生」と墨書があります。

第2展示室「朝鮮のやきもの」展で展示中

移動美術展 今年度は中能登町で開催

今年度の移動美術展は、中能登町で開催されます。会場は、平成7年に開催したラピア鹿島で、二度目の展覧会となりますが、本年3月に鳥屋町・鹿島町・鹿西町が合併し、中能登町となって初めて開催するものです。今回は、日本画・油絵・素描・版画・彫刻の各分野より、50件(59点)の作品を展示いたします。

移動美術展は、広く県民の要望に応じて、優れた美術作品の鑑賞の機会を提供するために、県立美術館の所蔵品を県内の各会場へ移動し、展覧するもので、毎回、開催地近隣の学校団体をはじめ、たくさんの方々にお越し頂いております。



裸女達に捧ぐ 宮本三郎

なかなか美術館まで訪れる機会がない方々、今年度は中能登町までお越しください。素晴らしい作品がそれぞれに持つ迫力・魅力を間近で感じられる絶好のチャンスとなっております。

また、会期中は美術映画の上映も毎日行う予定です。皆様のご来場をお待ちしております。

会場 ラピア鹿島(鹿島郡中能登町井田に部50)
会期 11月20日(日)~27日(日) 会期中無休
午前9時~午後5時
入場料 無料

次回の展覧会

特別陳列 朝鮮のやきもの (第2展示室)

特集 至芸の世界 - 石川ゆかりの芸術院会員・人間国宝 - (第5展示室)

特集 石川ゆかりの京都の日本画家たち (第6展示室)

12月23日(金・祝)まで

特集 四季山水図襖 (前田育徳会展示室)
11月30日(水)~12月23日(金・祝)

展示替えのため、前田育徳会展示室は11月28日(月)・29日(火)閉室致します。

石川県立美術館だより 第265号

2005年11月1日発行

〒920 0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>